

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②施設・事業所情報

名称：	鶴見どろんこ保育園	種別：	認可保育園	
代表者氏名：	施設長 井上 あゆな	定員（利用人数）：	90（99） 名	
所在地：	230-0012 神奈川県横浜市鶴見区下末吉6-10-36			
TEL：	045-585-1860	ホームページ：	https://www.doronko.jp/facilities/doronko-tsurumi/	
【施設・事業所の概要】				
開設年月日		2012年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：		社会福祉法人どろんこ会		
職員数	常勤職員：	20 名	非常勤職員：	5 名
専門職員	保育士	21 名	栄養士	3 名
	看護師	0 名	調理員	0 名
	事務員	1 名		
施設・設備 の概要	居室数： 保育室5室、調理室、 事務室、支援室2室		設備等： 園庭、エレベーター、 シャワー室2、駐車場	

③理念・基本方針

【子育て理念】
にんげん力。育てます。
「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。

【子育て目標】
1.センス・オブ・ワンダー
子どもが“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気付くことができるように多くの実体験の機会を提供し、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。

2.人対人コミュニケーション
園外では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。

④施設・事業所の特徴的な取組

当園は、どろんこ会グループが掲げる「理念」と「子育て目標」のほか、「私たちが育てる6つの力」に基づき、様々な活動を取り入れて保育を実践しています。一日の始めに座禅を組み、畑仕事やヤギの世話などをして、長距離散歩や園庭遊びで思い切り体を動かして遊び、強い体を作れるようにしています。

また、子どもたちが異年齢で自由に交わりながら過ごすことができる環境づくりを行い、一緒に遊び、一緒に食べ、一緒に考えるなどの経験を積み重ねる中で、自分の考えを表現する力や自分で決める力、年下の子どもの思いやる気持ちを育めるようにしています。

「商店街ツアー」や「銭湯でお風呂の日」の活動を通して、地域の人たちと触れ合う機会も取り入れているほか、「青空保育」では、地域の親子と公園で一緒に遊ぶなどして交流しています。

保護者とは、子どもの育ちをともに見守る関係性を大切にして、連絡帳アプリや「3分間お迎え対応」で情報を共有しているほか、日々の活動の様子を写真とコメントで配信するなどしています。また、保育参加を随時受け入れて、一緒に園生活を体験してもらいながら子どもの姿を共有できるようにしています。

地域子育て支援カフェ「ちきんえっく」の取り組みを行っており、地域の保護者や子どもたちに向けて、園開放や子育て相談、交流保育、講座の開催のほか、クッキングを一緒にするなどして地域支援にも積極的に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年5月17日（契約日）～ 2025年1月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2019 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子ども一人ひとりの個性を尊重して、丁寧な保育の実践につなげています

園では、全クラスで「個別記録」を作成し、子どもの姿を振り返りながら現況と課題、今後に向けた配慮事項などを記載しています。5領域に関するチェック項目もあり、一人ひとりの発達段階を細やかに記録して、職員間で共有しています。こうした記録に基づいて子どもが何をしたいのか、何をしたくないのかなどを子どもの思いに寄り添いながら捉えていき、一人ひとりの子どもに合った援助方法や言葉かけについて職員間で確認し合っています。職員は、子ども一人ひとりの理解を深めてやりたいことを尊重し、子どもの個性を生かせるよう丁寧な保育を実践しています。子どもたちは、職員に見守られて伸び伸びと自分を表現しながら成長しています。

◆職員間の連携を深めながら、より良い保育の実現に向けて取り組んでいます

どろんこ会グループの理念に基づき園全体で方向性を共通理解するために、毎年度、年間の園目標を職員間で話し合って設定しています。例えば、子どもとのつながり、保護者とのつながり、職員間のつながりなど何事にも前向きに捉えながら保育にあたれるよう「ポジティブ・ハート」という目標を掲げ職員間の意識統一を図っています。また、衛生管理や図書、生き物、畑などの業務分担の係を決めてそれぞれが責任を持って、園運営に関わりながら、子どもにとって最善の保育環境を提供できるようにしています。各種会議では、子どもの視点に立った互いの気づきや保育観を伝え合うことで、職員間の連携を深め、より良い保育の実現を目指しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

園の規模のから、丁寧な保育、接遇と言う点で伝達面の向上は引き続き課題であると考えている。子ども一人ひとりと丁寧に関わり、振り返り、職員間の連携を深め、子どもたちの健やかな成長と安心・安全な保育を行なうため、「保育の語り合い」と「風通しの良い環境づくり」を目指し、スタッフ同より一層、力を合わせて取り組んでいきたいと考えています。

運営面での評価は、グループ内の施設長たちが考案し、法人として毎年更新を行っている「保育品質マニュアル」「運営マニュアル」が評価ポイントとして大きく感じた。引き続き、事業計画で示している通りマニュアル遵守を遂行していこうと考えている。

第三者評価の受審を通して、課題が改めて明確になったが、同時に園の成果やストロングポイントにも気づくことができた。評価をいただいた項目については今後さらに推進していくとともに、改善を必要とされる項目については十分に検討を重ねながら保育の質の向上に努め、より良い施設を目指して努力していく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり